

脚本
松之湯の悲劇

[http://unohirotest.mydns
.jp/hiroshi/cgi/top.pl](http://unohirotest.mydns.jp/hiroshi/cgi/top.pl)

karasuno10

喜劇

松之湯の悲劇

烏野
博史

人物

楠井恵 (45) 松の湯・番台

楠井葛生 (50) 同・番台、その夫

師走孝 (75) 同・常連

楠井寛太 (17) 同・番台、その息子

客 A (62) 男性

客 B (55) 男性

客達

①松の湯・前

シャッターが閉まっている。

②同・男湯・脱衣所

脇にはマッサージチェアがある。

中央に雑誌コーナーと縁台。

③同・台所

楠井葛生（50）、楠井恵（45）、楠井

寛太（17）がテーブルを囲んでる。

恵「私の言う事がわかるね？」

葛生、首をかしげる。

寛太「ウチの売り上げが下がってるって事は
わかった」

葛生「そんなの常連がいるじえねえか」

恵「わかってない。常連さんは減った。今では
毎日来てるのは師走さんぐらいよ」

寛太、手を上げる。

寛太「薬湯をしたらどう？」

恵、うなづく。

寛太「あと雑誌の数を多くしてみたら？」

恵「あれはどうだろうね。金がかかる。買うのは人気のある雑誌絞ろう」

葛生「うちの売りはサウナだろ？ 俺、サウナで弾き語りするよ」

恵「誰があんたの歌を聞きたいんだい？」

葛生、ニヤリと微笑む。

恵「はいはい。雑誌は減らす。薬湯は試験的にやってみる。以上。戻って支度するよ」

恵と寛太、立ち上がる。

④ 同・前

“松の湯”ののれんがかかっている。

⑤ 同・男湯・脱衣所

番台には笑顔の恵が座っている。

減らされた雑誌。

⑥ 同・男湯・浴室

柑橘系果実が袋に詰めて、浮かべられ

た風呂に入っている客A。風呂から出た、客Aがサウナのほうへ移動する。

⑦ 同・男湯・サウナ

客A、入って来て、驚く。

サングラスをかけ、アロハシャツにギターを抱えて、入口前に座っている葛生と、葛生を覗き込む客達。

葛生、額に汗を流している。

客A、せまそうに席にすわる。

客A 「ご主人、どうしたんや？」

葛生、Country roadを歌う。

客達、次第に体でリズムを取り、合いの手を入れ始める。

客達に笑顔が広がる。

葛生、倒れる。

恵、バスタオルを持って入ってくる。

恵、笑顔。

⑧ 同・男湯・脱衣所

葛生、目を覚まし、起き上がる。

心配そうに葛生を見る恵と客Aと客達。

恵、安堵の溜息をつく。

葛生、啞然とする。

客A「あんた、倒れたんやで」

恵、客達にお辞儀する。

恵「ご迷惑をおかけしました」

葛生「待ってくれ！ ……俺の歌どうだった？」

恵、葛生を見て、溜息をつく。

恵「……下手くそ」

客達、うなづく。

葛生、高速で瞬きを何度もする。

葛生「もうこんな所、帰ってくるか！」

葛生、出て行く。

⑨ 陸橋（夕）

陸橋の真ん中で夕日を見ている葛生。

葛生の足元には缶チューハイ。

葛生、涙ぐみ、目をこする。

葛生「おてんと様よ。俺はなんて不幸なんだ。

もつと頭良く生まれたらよ……」

葛生、がくりと膝からくずれ落ち、手摺にしがみつく。

葛生「もつと、若い頃はモテたしよ。今頃は、大金持ちだったしよお。くそ、道踏み誤つたぜ」

手摺に赤とんぼがとまる。葛生、赤とんぼを見る。

葛生「お前は自由で良いなあ」

赤とんぼ、手摺から飛び立つ。

葛生、立ち上がり、目で赤とんぼを追いかける。

葛生「ちよ、待ってくれ！話を聞いてくれ。俺も自由に！」

葛生の視線の先、真つ赤な夕日が広がっている。

葛生、目を見開く。

葛生「神よおおお！」

葛生、夕日に向かって両腕を広げる。

⑩ 松の湯・前

“松の湯”ののれんがかかっている。

⑪ 同・男湯・脱衣所

番台で携帯ゲームをしている寛太。

客A、ドアから入って来て、金を払う。

寛太「こんばんわ」

客B、ドアから出て行く。

客B「ありがとう」

寛太、ゲームに視線を落としたまま、

寛太「ありがとうございます」

葛生、がっくりと肩を落として入ってくる。

寛太「こんばんわ」

葛生、金を払わず入ろうとする。

寛太「お客さん、お代……父ちゃん」

葛生、嬉しそうに、振り向く。

葛生「寛太……」

寛太「お代は？」

葛生、がっくり肩を落とす。

恵、脱衣所に入ってくる。

恵「寛太、交代」

恵、葛生を見る。

葛生「誤解するな。い、今の俺は客だ」

葛生、風呂セットを見せる。

恵、番台に上がる。

恵「御飯の準備ができたから、あがって食ってきなさい」

寛太、うなづき、出て行く。

葛生「だいたいな。俺は――」

恵、TVを見て、ニヤニヤ笑っている。

客が入ってくる。

恵と葛生、笑顔になる。

葛生「だから、俺は店のためを思っ……」

恵、TVを見て笑っている。

葛生、縁台に座る。

師走孝（75）、浴室から出てくる。

葛生、貧乏ゆすりをする。

葛生、辺りを見回す。

服を着替えた師走、マッサージチェア

に座る。

葛生「師走さん！ 師走さんじゃないですか！

ちよつと！」

葛生、師走をマッサージチェアからひ
っぱり出して、縁台の上にねかせる。

恵、笑顔のまま眉間にしわをよせる。

葛生「師走さん。大分凝ってますね」

師走、苦悶の表情。

葛生「このへんとかどうですか」

師走「痛たたた」

葛生「痛いのは効いている証拠です。どんどん

んいきますよ」

師走「いたいいたい」

師走、苦悶の表情。

葛生、満面の笑み。

師走、苦悶の表情。

葛生、満面の笑み。

恵、満面の笑み。

恵、葛生を入口から蹴り出す。
恵、辺りに誰もいない事を確認して、
道に葛生の風呂セットを投げ捨てる。

⑬ 同・男湯・脱衣所

恵、師走をたたせる。

恵「どうもすみません」

師走、立ち上がる。

師走「いや良いんだ。許してやってくれ」

恵「そんなわけにはいきません」

師走「あいつにも良い所があるだろう？」

恵「(即座に) ないですね」

師走、ずっこける。

師走「……助かってる事もあるだろう？」

恵「まあ……家族経営ですから」

師走、うなづく。

師走「俺は好きだよ。あのうるさいの」

恵、溜息をつく。

⑭ 陸橋(夕)

陸橋の真ん中で、夕日を見ている恵。

恵の足元には買い物袋。

葛生、とぼとぼと上がってくる。

葛生、恵を見て、驚愕の表情。

葛生「あの……お母さん？　なんで？」

恵、遠くの空を見る。

葛生、がっくりと俯く。

恵「馬鹿は高い所が好きだからね」

葛生、顔を上げる。

恵、葛生の前を横切り、階段を下りる。

恵「帰るよ」

葛生、顔に笑みが広がる。

葛生「はい。はい。もちろん帰りますよ。あ

あ、お荷物持ちましょう。疲れたでしょう！」

葛生、恵を追い、階段を駆け下りる。

恵「気持ち悪い」

葛生「マッサージチェアやりますよ、俺」

葛生、恵の肩をつかみ白目をむいて振

動する。

夕日の中、鳥が飛んでいる。

著者HP：[鳥野の箱庭](#)

